麦類病害

1　予報の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予　報　の　根　拠
雪腐病	―	並	（1）今年春の全県の発生圃場率は平年並だった。（±） （2）寒候期予報では、冬期間（12～２月）の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の予報。（±）

記号の説明　(++)：重要な多発要因、(＋)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－－)：重要な少発要因

2　防除のポイント

【雪腐病】

（1）例年発生する圃場や県北部、高標高地帯等の根雪期間が長い地域では、雪腐病の種類に応じた防除を必ず実施する。

なお、小麦品種の耐雪性は表１のとおりである。特に、「銀河のちから」と「ナンブキラリ」は耐寒雪性が「やや弱」で、被害が出やすいため、防除に努める。

表１　小麦品種の耐寒雪性

品種	耐寒雪性
ナンブコムギ	強
ゆきちから	強
銀河のちから	**やや弱**
ナンブキラリ	**やや弱**

（2）小麦の雪腐病は病原菌が数種あり、発生する種類により防除薬剤が異なるので、表２を参考に薬剤を選択する。雪腐小粒菌核病（黒色、褐色）と紅色雪腐病が混発する圃場では、同時防除が必要となる。なお、ベフラン液剤25で種子消毒した場合は、紅色雪腐病を対象とした根雪前の茎葉散布を省略できる。

防除時期は根雪間近（表３参照）とし、タイミングを失しないようにする。なお、フロンサイドＳＣは残効が長いため、根雪開始の１か月程度前に散布しても防除効果が得られる。

（3）薬剤散布後の気象状況によっては、再散布が必要な場合があるので、表２を参考に対応する。

（4）融雪が遅れると多発するので、春先の消雪促進に努め、圃場の排水を良くする。

表２　雪腐病の防除薬剤（小麦）

農薬名（商品名）	紅色雪腐病	雪腐小粒菌核病	使用時期	再散布が必要なケース
フロンサイドＳＣ	◎	○	根雪前	薬剤散布～根雪開始の期間に積算降水量120㎜以上または日最大降水量65㎜程度の降雨があった場合
トップジンM水和剤	○	○		薬剤散布後に２週間以上根雪にならなかった場合または30㎜以上の降雨があった場合
ベフラン液剤25	◎			
バシタック水和剤75　※		○		
キノンドー水和剤80、オキシンドー水和剤80	○	○		

◎：効果高い、○：効果有り、※：麦類として登録

表３　根雪間近の目安

地域	防除時期
平坦部	12月上旬～中旬
山間部	11月下旬～12月上旬